

2025年度事業計画

<目次>

■ 1 ■	事業計画	P 1
■ 2 ■	事業計画 詳細	
	大阪工業大学	P 2
	摂南大学	P 5
	広島国際大学	P 7
	常翔学園中学校・高等学校	P 9
	常翔啓光学園中学校・高等学校	P12
■ 3 ■	理事長指針・学校長方針	P14

■ 1 ■ 事業計画

区分・事業計画名称 [申請部署]	件数 (件)
大阪工業大学	
1. 教育力・研究力の強化 [企画課、研究支援社会連携推進課、教務課]	
2. ブランド力の向上 [企画課、研究支援社会連携推進課、工学部事務室、ロボティクス&デザイン工学部事務室、教務課、入試課]	2
摂南大学	
1. 開学50周年記念事業 [企画課、庶務課、学生課]	2
2. 研究環境整備事業 [研究支援・社会連携センター、農学部]	
広島国際大学	
1. 2027年度改革に向けた体制整備 [学長室、教育・学生支援機構、入試センター、研究支援・社会連携センター]	1
常翔学園中学校・高等学校	
1. 中学・高校の探究授業の拡充 [高校教頭、中学教頭、教育イノベーションセンター]	
2. グローバル教育に伴う国際交流事業、英語4技能に対する生徒の能力向上と高校「グローバル探究コース」における教材開発の継続 [高校教頭、中学教頭、教育イノベーションセンター]	2
常翔啓光学園中学校・高等学校	
1. 体育館改修事業 [高校教頭、中学教頭、事務室]	2
2. ICT教育用機器の更新等整備事業 [高校教頭、中学教頭、教務部、事務室]	
合 計	9

■ 2 ■ 事業計画 詳細

大阪工業大学

No.1 教育力・研究力の強化

〔申請部署：企画課、研究支援社会連携推進課、教務課〕

【必要性・目的、実施計画等】

≪必要性・目的≫

在学生および受験生(保護者を含む)、高等学校や教育関係者、地域・企業などのあらゆる対象から高等教育機関として魅力的かつ求められる大学としてあり続けるために、「就職力」の礎となる「教育力」「研究力」の強化を図る。

○教育活動の推進

学生個々に対する自律学修をサポートする体制の維持・向上とともに、デジタル技術を活用した教育の可能性を追求する。

また、学園設置大学との連携強化による教育サービスの拡充を図る。

○研究活動の推進

定員増による学費収入増加が見込めない情勢下において、大学の研究力強化のためには、外部資金の獲得、産官学連携の促進および大学発スタートアップの創出による「研究市場の開拓」が不可欠となる。時代の趨勢に合わせて研究基盤確立のための施策を展開する。

≪実施計画≫

①内部質保証の実質化の促進

自己評価・IR 委員会を軸に IR 年報を活用した内部質保証の取り組みを実施する。

2025年4月～7月 IR年報の作成(従来の内容から刷新)

2025年7月～3月 2024年度内部質保証/IR活動

2026年3月 自己評価・IR委員会において各学部の活動について確認

また、アンケートや対話によって学生の意見・要望をくみ上げる仕組みを構築する。学外関係者に意見を聞き、その分析結果を教育研究活動や大学運営の改善・向上に反映する仕組みを構築する。

②デジタル技術を活用した教育の質の向上

(通年)オンライン授業(オンデマンド)を推進していくための環境を整備する。

③リベラルアーツ科目群の整備

(通年)学部間の「文系教養」学修リソースの不均衡を是正しつつ、本学が「教育の理念」で掲げる人材像の育成をより高度なレベルで大学全体において実現するための教育課程・方法論・体制等を整備する。

(通年)工学系学問領域を幅広く有する本学の特長を活かしたリベラルアーツ科目群の構築に向けた検討を行う。

④学園設置大学間での連携強化

(通年)大阪工業大学・摂南大学相互の連携により教育内容や教育分野の拡充を図るための検討を実施する。

⑤イノベーションデザイン教育研究センター(以下、CIDRe)を基軸とした実践教育プログラムの拡充

(通年)イノベーション人材育成のプログラムとして新規・継続の取り組み

・インターンシップの支援プログラムとして、企業連携による事前学習を実施する。

・企業との連携による課題解決型学習プログラムを実施する。

・ピッチコンテスト等、学生の発表する場所を創出する。

⑥研究活動の促進にかかる取り組みの推進

(通年)研究資金獲得強化の取り組み実施

・外部資金獲得後(ポスト・アワード)の人材強化を図る。

・科研費を除く競争的資金、間接経費の配分を再考する。

・研究設備スペースの適正化を図る。

・研究プロジェクト事業のブラッシュアップを行う。

(通年)産学連携促進

・城北倶楽部、大阪商工会議所等の連携関係にある団体を活用する。

・組織対組織での連携を図る。

(通年)スタートアップ育成支援

・教育系職員、学生の起業マインド醸成の仕掛けを構築する。

・知的財産学部との協力による知財戦略を策定する。

・大阪商工会議所との連携(第2創業によるジョイントベンチャーの育成など)を促進する。

【具体的指標・効果（成果検証）】

- ①内部質保証の実質化の促進
 - ・刷新された IR 年報に基づき、各学部が具体的な自己評価を行えている。
 - ・昨年度(2024)の自己評価・IR 委員会がとりまとめた改善課題に対し、具体的な取り組みを設定している。
 - ・ディプロマ・サブリメント・システムに基づく DP 達成度の達成状況。
 - ・授業外学修時間の増加状況。
 - ・アンケートや対話から得た学生の意見や学外関係者の意見とその分析結果を教育活動の改善に繋げている。
- ②デジタル技術を活用した教育の質の向上
 - オンライン・オンデマンドを活用したキャンパス間の接続強化ができています。
- ③リベラルアーツ科目群の整備
 - 教育課程や授業内容の具体化に向けた検討をすすめている。
- ④学園設置大学間での連携強化
 - 連携していく概要(具体的な内容やスケジュール等)を設定できている。
- ⑤CIDRe を基軸とした実践教育プログラムの拡充
 - ・リスキリング教育科目を実施している。
 - ・企業連携によるインターンシップの事前学習プログラムを実施している。
 - ・企業との連携による課題解決型学修を実施している。
- ⑥研究活動の促進にかかる取り組みの推進
 - ・外部資金獲得額の増加。
 - ・城北倶楽部、大阪商工会議所との接点強化(Xportの活用強化)。
 - ・大学発ベンチャー企業の設立数 など。

No.2 ブランド力の向上

〔申請部署：企画課、研究支援社会連携推進課、工学部事務室、
ロボティクス&デザイン工学部事務室、教務課、入試課〕

【必要性・目的、実施計画等】

《必要性・目的》

急激に進む少子化による志願者激減への対応や、競合校による学生確保へ向けたさまざまな取り組みに打ち勝つ施策の実施が必要である。

学園創立 102 年目を迎えて、新たな 100 年に向けてスタートしたブランド力向上にかかる取り組みの具現化と情報発信を行う。

《実施計画》

- ①バイオものづくりセンターを通じた研究力の発信
2025 年度末に完成するバイオものづくりセンターの研究施設の充実により、研究力の発信を強化する。
- ②NVIDIAとの連携における取り組みの実施・発信
オムニバスの導入による研究力向上に繋げる活動の実施と情報発信を行う。
- ③DXフィールドおよびeスポーツ施設の情報発信
・枚方キャンパスにおけるDXフィールドを活用した教育研究活動と梅田キャンパスにおけるeスポーツ施設を活用した課外活動を通じた発信強化を行う。
・企業との連携協定と共同研究の実現により、研究活動の推進を図る。
- ④工学部プロジェクト活動の充実
プロジェクト活動の充実および情報発信の強化を図る。
- ⑤高大連携事業による高等学校との関係強化を図る新規施策の実施
AO入試(総合選抜型)において安定的に入学者を確保する体制を確立する。
- ⑥認知拡大の継続と本学の特長を発信する取り組みの強化
校名認知から特長認知を向上する施策として、メディアを活用した取り組みを実施し、本学の“成長できる大学”としての教育・研究内容を発信する。

【具体的指標・効果（成果検証）】

- ①バイオものづくりセンターを通じた研究力の発信
バイオものづくりセンターにおける研究活動の開始および研究活動を発信している。
- ②NVIDIAとの連携における取り組みの実施・発信
研究力向上に繋がる新規取り組みを開始している。
- ③DXフィールドおよびeスポーツ施設の情報発信
・DXフィールドにおける教育研究活動と梅田キャンパスeスポーツ施設における取り組みを実施し、プレスリリースに繋がっている。
・企業連携による新規研究活動を開始している。
- ④工学部プロジェクト活動の充実
新規プロジェクト活動の運用の開始ならびに既存プロジェクトの充実を図っている。
- ⑤高大連携事業による高等学校との関係強化を図る新規施策の実施
連携強化校を対象とした総合型選抜入試を継続して実施し、入学者を確保している。
- ⑥認知拡大の継続と本学の特長を発信する取り組みの強化
・本学の特長を発信する動画等の制作および発信
・研究活動の継続的なリリース

No.1 開学 50 周年記念事業

〔申請部署：企画課、庶務課、学生課〕

【必要性・目的、実施計画等】

≪必要性・目的≫

2025 年に迎える開学 50 周年の節目を機に、記念事業の一環として、本学が大切にしてきた教育の理念や学園の建学の精神を実現すべく、在学生および教職員が一体となって取り組むプロジェクトや記念シンポジウム等を実施する。また、学内にシンボリックな課外活動施設(クライミングウォール)を設け、各種大会の誘致等、受験者層や地域社会からの強い関心を得る。

大学としてのブランド価値を創出・強化し、その内容を広報展開することにより、大学ブランドの向上に繋げていく。

≪実施計画≫

- ①クライミングウォール(ボルダー)設置: 2026 年 3 月竣工
- ②「挑む、楽しむ。」プロジェクト活動*: 2025 年 4 月～2026 年 3 月(応募・採択は 2024 年度中に実施・決定)
- ③50 周年史アーカイブ動画制作: 2025 年 10 月完成
- ④記念式典、シンポジウムの実施: 2025 年 10 月～12 月

※:開学 50 周年の記念事業の一環として、2024 年度に『「挑む、楽しむ。」プロジェクト』を発足。地域や企業との連携、学生の成長に繋がるプロジェクトを学内で募集し、支援している。

(その他)

国際学術シンポジウム、国際・地域経済開発シンポジウム、本学オリジナル商品と呼び物としたイベント等の実施を予定している(詳細未定)。

【具体的指標・効果(成果検証)】

- ①クライミングウォール(ボルダー)設置: 2026 年 3 月竣工
- ②「挑む、楽しむ。」プロジェクト活動: 2025 年 4 月～2026 年 3 月(応募・採択は 2024 年度中に実施・決定)
- ③50 周年史アーカイブ動画制作: 2025 年 10 月完成
- ④記念式典、シンポジウムの実施: 2025 年 10 月～12 月

【必要性・目的、実施計画等】

≪必要性・目的≫

本学の独創的な医食農連携研究を推進するために、「ライフサイエンス研究所」を設置する。薬・看護・農・理工学部(生命科学科)の教員を中心に重点的に研究を展開するとともに、大阪工業大学や研究連携協定を締結している関西医科大学のほか、薬学部を中心に進めている先端医療開発コンソーシアム(藤田医科大学他と共同)との連携を強化し、生命科学研究の新しい拠点化を目指す。

また、研究プラットフォームとして「中型動物飼育施設」を設置する。社会的要請の高い先端的な研究の推進は、本学の知名度アップにつながるるとともに、医療技術への応用・実用化に結実すると期待される。

≪実施計画≫

①「ライフサイエンス研究所」の設置

- ・当初はバーチャルな研究所として開設し、各部局施設やインキュベーションラボを活用して研究を進める。
- ・研究交流および研究成果の発信のために、研究所を中心としたシンポジウムを開催する。

②「中型動物飼育施設」の設置:複数年度計画(2025～2026年度)

- ・腸内細菌叢、異種移植医療などの研究に使用する中型動物飼育施設を2025年度に設計し、2026年度に整備する。
- なお、整備費用の一部に外部資金を活用する(20,000千円相当)。

【具体的指標・効果(成果検証)】

①「ライフサイエンス研究所」の設置

- ・共同研究の推進:研究所の関係する共同研究を毎年度3件以上実施する。
- ・外部研究費の獲得:研究所の関係する外部研究費による研究を毎年度3件以上実施する。
- ・広報:研究所の関係する研究成果をシンポジウムで発表するほか、マスコミ発表を毎年度2件以上行う。

②「中型動物飼育施設」の設置:複数年度計画(2025～2026年度)

- ・中型動物飼育施設を設計する。

No.1 2027 年度改革に向けた体制整備

〔申請部署：学長室、教育・学生支援機構、入試センター、研究支援・社会連携センター〕

【必要性・目的、実施計画等】

《必要性・目的》

2027 年度から再び 18 歳人口が減少期に入り、これまで以上に多様な学生が入学してくることが予想されるなど、大学を取り巻く環境が一層厳しさを増す中で、選ばれる大学として持続可能な未来を目指すため、「教育・学生支援」「組織」「財務」を一体的に捉えた改革を推進し、教職員がチャレンジできる体制を確立する。そのために、2025 年度を体制整備の期間と位置付けて、多角的な施策を展開し、持続的な成長基盤の構築に取り組んでいく。

《実施計画》

【教育・学生支援改革】

- (1) 学生層に応じた学修者本位の教育および学生・支援体制の整備
 - ・専門教育と教養教育を融合し、全学年を通じた学びの実現(新カリキュラムの編成)
 - ・他職種(他学科学生)との連携を強化した専門職連携教育の再整備
 - ・多様な学生に対応した入学前提供プログラムの再整備
 - ・入学後の学生の内的変化に呼応する新たな進路に向けて柔軟に対応できる制度の構築(転学科の再考)
 - ・学生間で繋がり学び合う仕組みの構築と教職協働による学生支援の充実
 - ・正課外活動を通して学生が成長できるサポート体制の確立

【組織改革】

- (1) 教職員の役割に基づく能力向上とやりがいを持って働ける環境の実現
 - ・教職員のモチベーション向上施策の策定
- (2) 将来に向けてチャレンジできる組織体制の構築
 - ・教育・学生支援に注力できる教員体制の構築

【財務改革】

- (1) 本学の特色を生かした共同研究等の推進、大学全体での研究活動の活性化
 - ・教員が積極的に取り組める研究促進策の策定
 - ・地方自治体等との連携を踏まえた共同研究等の実現
- (2) 安定的な大学経営のための学生募集活動の実施
 - ・専願制入試の充実によるアドミッション・ポリシーに合致した入学者の確保
 - ・強化指定クラブにおける学生募集の強化
 - ・2027 年度の教育・学生支援改革に併せた入学者選抜の内容検討と募集戦略の策定
- (3) 財政基盤強化施策の推進(収支バランスの適正化)
 - ・恒常的経費の精査および費用対効果の検証等による各種事業の見直し
 - ・各種補助金の獲得に向けた協力体制強化
 - ・魅力ある教育環境の提供ならびに大学施設の利活用により学生満足度を向上させ、大学の資産価値を高める施設整備の実施。また、学生募集力の強化と入学定員確保への貢献。

【具体的指標・効果(成果検証)】

【教育・学生支援改革】

- (1) 学生層に応じた学修者本位の教育および学生・支援体制の整備

多様な学生が学修成果を実感できる学修者本位の教育および学生支援体制の整備を行うため、以下の施策の策定および環境を整備する。

 - ・2027 年度教育改革に向けたカリキュラムの編成方針に基づき、各学科・専攻の新カリキュラムを策定
 - ・専門職連携教育の目的を再定義のうえ、目的に沿ったプログラムを策定
 - ・入学前提供プログラムの目的を再定義のうえ、目的に沿ったプログラムを策定
 - ・転学科制度の基本方針を策定のうえ、運用方法を決定
 - ・キャリア形成支援の見直しを行い、就業力育成プログラムを再構築
 - ・学生支援業務を目的・内容別に分類・整備
 - ・正課外活動の支援方針を策定

広島国際大学

【組織改革】

- (1) 教職員の役割に基づく能力向上とやりがいを持って働ける環境の実現
 - ・教職員の意欲向上につなげるために、教職員の常日頃の教育研究活動等の取り組みに対する表彰制度の見直し
 - ・若手教員の資質能力を十分に発揮できる支援方法の策定
 - ・教職員に求められる役割に必要な能力に対する評価項目や評価基準等の策定
- (2) 将来に向けてチャレンジできる組織体制の構築
 - ・若手教員が自らの資質能力を十分に発揮できる活躍の場や一層の研鑽の場となる協議・相談体制の策定

【財務改革】

- (1) 本学の特色を生かした共同研究等の推進、大学全体での研究活動の活性化
 - ・自治体(東広島市:Town&Gown Office)との連携強化ならびに健康・医療・福祉分野の知見を活かした産官学による地域の課題解決に寄与する共同研究等の推進
 - ・新たな学内特別研究助成制度の実施
学内特別研究助成制度の見直しによる研究者の学内特別研究助成への申請件数の増加
- (2) 安定的な大学経営のための学生募集活動の実施
 - ・専願制入試における入学者確保数 550 名(2026 年度入試)
 - ・2027 年度入試の内容確定と募集戦略の立案
- (3) 財政基盤強化施策の推進(収支バランスの適正化)
 - ・恒常的経費の精査、費用対効果の検証等による各種事業の見直し
 - ・「教育の質に係る客観的指標調査」の点数の維持・向上
 - ・「改革総合支援事業」タイプ 3 獲得
 - ・体育施設(体育館、柔道場、第2練習場)空調設置工事および野球場の新設工事の竣工、ならびに関連団体の入学者確保数 60 名

No.1 中学・高校の探究授業の拡充

〔申請部署：高校教頭、中学教頭、教育イノベーションセンター〕

【必要性・目的、実施計画等】

≪必要性・目的≫

本校は 2006 年度から長年にわたって、キャリア教育を通してアクティブラーニングを展開してきている。高校の「ガリレオプラン」では、大学のようなゼミ活動を行い、生徒の科学的探究心を育成している。また、タブレットなどのICT機器を活用して、学園設置大学の研究室や企業と連携するほか、海外の生徒との交流を行うことにより、「科学的探究心」と「21 世紀型スキル」を育成し、将来の進学先へと繋ぐ教育を展開している。中学校でもスーパーJコースで探究アウトプットの授業を導入した。2025 年度から海外修学旅行を実施することを踏まえ、従来のSTEAM教育の実施順を組み替えつつ、プログラミングや科学実験などと併せて、更なる充実を目指し、高校のガリレオプランに繋がる教育を実践する。

≪実施計画≫

(1)中学校STEAM教育の実践

①「常翔STEAM」の指導法の充実

- ・タブレットやオリジナルプリントを使用し、概要説明、アイスブレイク、各自演習、グループワーク、振り返りなど、アクティブラーニングを中心に、コアコンピテンシーに基づく資質能力を向上させる指導の実施。
- ・外部指導者の招へい。
- ・著名人による講演会実施。

②学園設置大学との連携

- ・各STEAMの内容により、中大接続の推進、学園設置大学訪問。

③成果発表(英語発表含む)

- ・各授業でチーム内発表、クラス発表をし、振り返る。各期間で身につけた資質能力を測るため、目的・目標に合わせた成果発表会を実施。外部審査員を招へい。

④科学の甲子園ジュニア、英語スピーチコンテストへの参加者数の増加を目指す。

(2)高校「ガリレオプラン探究」を中心とした探究教育の実践

一貫コース I 類、スーパーコース、薬学・医療系進学コース(2025 年度から薬学看護医療系コース)対象

①科学探究プログラム「ガリレオプラン探究」の指導法の研究

- ・教材の研究開発、本校教員と学園内外の大学教員、TAとの連携による実験技術指導法の研究。
- ・タブレットなどのICT機器、デジタル教材等を活用した授業法の研究。
- ・学園設置大学各研究室や企業との連携、高大接続の在り方の研究。
- ・他校への視察。

②各大学等との連携強化

- ・高大接続の推進。
- ・学園設置大学の研究室訪問。
- ・サイエンス・フォーラムにおける著名人の講演会実施。
- ・タブレットを利用した海外の生徒との交流。
- ・英語によるプレゼンテーションの取組み。
- ・海外研修、海外姉妹校提携など、国際性を育成する取組み。
- ・海外姉妹校との交流、視察。

③成果発表の拡充(英語発表含む)

- ・各種科学系コンテストや他校で開催される発表会への参加。
- ・校内発表会の開催および外部審査員招へい。
- ・従来実施の Global Leaders Camp の受講者数の増加。

(3)第2 特別教室の活用と図書室のラーニングコモンス化

各種発表会の練習場所やその会場として、総合的な探究の時間も含めた有効活用。

①第2 特別教室のアクティブラーニングルーム化に伴う備品の整備(マイク、机など)

②図書室のWiFiの強化

③ラーニングコモンス化に向けての実地調査(他校視察など)

常翔学園中学校・高等学校

【具体的指標・効果（成果検証）】

期待される効果

- ・理系ブランド校としての認知により、優秀な生徒獲得につながる。(入学生徒の五ツ木偏差値の向上)
- ・「理系進学者、特に女子の減少」をくい止め、我が国の理系教育・科学立国に貢献する。(入学者における女子生徒の割合の向上)
- ・本学園設置学校間の連携もより強化される。(連携講座の生徒満足度向上)
- ・大学との連携により、生徒が進路や将来について検討する機会となる。
- ・生徒の「課題設定能力・科学的探究心」の育成に繋がる。
- ・他校生、特に海外の生徒との交流を通じてコミュニケーション能力やグローバルマインドの育成に繋がる。
(国公立大や難関私大の総合型選抜入試の合格者数増加)

No.2 グローバル教育に伴う国際交流事業、英語4技能に対する生徒の能力向上と
高校「グローバル探究コース」における教材開発の継続

〔申請部署：高校教頭、中学教頭、教育イノベーションセンター〕

【必要性・目的、実施計画等】

《必要性・目的》

2024年度に国際交流事業が飛躍的に増加したが、2025年度からは新設したグローバル探究コースが本校の国際交流の中心的な役割を果たすことになる。ネイティブ英語教員や留学生が在籍していることが日常となることによって、生徒ならびに教員がグローバルな視点やダイバーシティを意識し、英語を通して日常的にコミュニケーションが取れるレベルを目指す。

また、「グローバル探究コース」では、CLIL(内容言語統合型学習)を実践するため、英語科が中心となり、他の教科と協同で授業教材を開発しているが、これは「英語を」学ぶのではなく、「英語で」学ぶことを意識したものである。英語4技能をバランスよく養成する姿勢を全コースに広げている。

《実施計画》

＜学校全体＞

- ・海外の複数の学校と姉妹校締結をし、交流を通して生徒と教員のグローバルマインド、ダイバーシティ感覚を身につけさせる。

＜高校＞

- ・高校1・2年生の英語授業にネイティブ英語教員を2名配置し、英語4技能を指導する。
- ・高校1・2年生を対象にネイティブ英語教員や有名大学に在籍している外国人留学生が指導する英語プログラム(1年:Basic English Camp、2年:Global Leaders Camp)を開催し、英語力だけでなく、英語を通してロジカルシンキング、クリティカルシンキングを学ぶ。
- ・高校1・2年生の英語授業に、ひとり1台のiPadを用いてネイティブ英語教員とのオンライン英会話授業を行う。

＜中学＞

- ・中学3年生の英語授業や総合的な学習の時間を利用し、ネイティブ英語教員による英会話の授業を実施する。

＜教員＞

- ・英語教員に対し、英語スキル・指導技術の優れた講師による集中した校内研修を行う。
- ・CLILを中心とした教科横断型の指導法について校内研修を行う。

【具体的指標・効果（成果検証）】

＜高校＞

- ・卒業時に40%以上の生徒が英検2級以上を取得、73%以上が準2級以上を取得する。(卒業生数739人)
(2023年度卒業生実績 2級以上:278人、37.5%、うち9人は準1級、1人が1級)(準2級以上:526人、71.2%)

＜中学＞

- ・卒業時に45%以上の生徒が英検準2級以上を取得、80%以上が3級以上を取得する。(卒業生数125人)
(2023年度卒業生実績 準2級以上:48人、38.4%、うち7人は2級)(3級以上:89人、71.2%)

No.1 体育館改修事業

〔申請部署：高校教頭、中学教頭、事務室〕

【必要性・目的、実施計画等】

《必要性・目的》

本校の体育館は、体育の授業や部活動はもとより、式典や学校説明会等の各種行事で活用しているが、かなりの老朽化が進んでいる。

については、利用者が安全で快適に使用できるよう、改修工事を実施する。

《実施計画》

(主な改修内容)

- ・既設屋根部分の大規模改修
- ・アリーナ照明のLED化
- ・体育館上部に換気用自動開閉窓の設置 等
- ・空調設備(エアコン)を新設

2026年度以降の計画

- ・アリーナ床面の補修工事
- ・バスケットゴール等、運動用備品の更新 等

【具体的指標・効果（成果検証）】

- ・教育環境の改善による、生徒や保護者の満足度向上。
- ・体育館は、オープンスクールや学校説明会でも使用しており、改修工事を行うことで入試広報面での生徒募集力強化にもつなげたい。

No.2 ICT 教育用機器の更新等整備事業

〔申請部署：高校教頭、中学教頭、教務部、事務室〕

【必要性・目的、実施計画等】

≪必要性・目的≫

本校では、ICT 教育を導入することで「授業力」と「生徒たちが将来必要な ICT スキル」を向上させることを狙いに、2015 年度から ICT 教育に必要となる機器を導入・整備してきた。

しかしながら、これら ICT 機器は他の備品と比べて陳腐化するのが早いなか、計画的に機器の更新また充実が必要である。

なお 2024 年度において、高等学校等デジタル人材育成支援事業費補助金(高等学校 DX 加速化推進事業)の採択により、同補助金を活用し電子黒板、プロジェクター、ハイスペック PC、3D プリンターなどを整備したが、2025 年度においても同補助金の申請を計画している。

≪実施計画≫

2025 年度においては、無線LAN装置の更新、サーバーの更新を行う。

(また高等学校等デジタル人材育成支援事業費補助金(高等学校 DX 加速化推進事業)を継続申請し、採択された場合は、同補助金の申請目的に沿って必要となる機器を整備する。)

【参考】2024 年度実績、2026 年度予定

2024 年度実績: 普通教室 23 教室分の電子黒板システムの更新。DX 補助金を活用した機器の整備

2026 年度予定: 普通教室 28 教室分の電子黒板システムの更新

【具体的指標・効果（成果検証）】

システムの更新により、生徒の教育環境が維持できる。また、能動授業、協働学習、反転授業、適応学習、探究型学習などといった学習体系に向けて活用することで、教育効果の向上が期待できる。

■ 3 ■ 理事長指針・学校長方針

理事長指針

「J-Vision37」のもと、各設置学校の教育・研究の質を向上させ、「選ばれる学校」として更なる発展を目指す。

1. 全職員は、それぞれの立場において求められる能力の向上を目指す。
2. 各設置学校相互の連携を推進し、教育・研究の充実と学生・生徒の支援策を強化する。
3. 安定的な財政基盤を構築し、将来に向けた教育・研究環境の改善を図る。
4. 教育・研究機関としての働き方改革を推進し、全職員がやりがいを持って働ける職場環境の構築を目指す。

大阪工業大学 学長方針

1. 基本方針

社会経済環境が急激に変化する今日、高等教育機関は新時代の立国を担う重要拠点として、これまで以上に教育・研究活動を拡充し、社会における新たな存在意義を築く必要がある。本学においても、全学的な内部質保証やガバナンス体制をいっそう強化しつつ、魅力的な将来構想やブランド力の向上、高大接続やリカレント教育の推進、18歳人口減少や入試改革・定員管理への対応など、押し寄せる課題の克服に積極果敢に取り組み、新たなエポックに向けて持続可能な大学運営を実現することが求められている。

2037年度までをターゲットにする新たな「Vision」、第I期中期目標・計画(2023～2027年度)の達成に向けた前進と、ブランド力(教育力・研究力・就職力)を更に強化する取り組みを継続的かつ発展的に組み合わせることで年度方針を策定し、改革精神を持って本学の新たな価値創出を志向する。

具体的には、現在の教育・研究基盤を強化し、新たな時代の要請に応え、また学生の学修成果・満足度向上につながるべく、「内部質保証の実質化の促進」や「研究活動の活性化」にかかる取り組みについて継続的に注力する。関連して、教育・研究にかかる諸活動の土台となるキャンパスおよび教育・研究施設の整備を推進する。

さらに、社会の動向に応じた入学選考の多様化を推し進め、多種入試における選抜機能の向上と堅実な学生確保を図る。学生募集活動においては、従来の入試戦略をより実効的に発展させるとともに、高大接続・理工教育支援事業の戦略的推進による高校との関係拡充、および大学広報活動においては認知拡大に加えて、教育・研究活動などの本学の特長の発信強化により、受験生・保護者や高校教員、さらには社会全般に向けた本学のブランド力向上に最大限注力する。

なお、すべての取り組みについて、適切な予算配分や重点的な投資を柔軟に組み合わせることにより、取組効果の最大化と財務バランスの改善を図る。

これらの基本方針のもと、継続性と新規性を兼ね備えた大学改革を実施するにあたって、2025年度は以下の主要課題を設定する。

2. 主要課題とそれに対する具体的な施策・指標

(1) 学部改編の推進(2025年度実施・導入に向けた取り組み)

指標: 学部改編にかかる具体的な取り組みの遂行

(2) 入学者選抜および学生募集にかかる戦略の推進

指標: 河合塾実態難易度(偏差値)、志願者数など

早期の入試で入学者を確保するためのAO入試(課外活動評価型)の導入

国公立大学志望層へのアプローチ強化策として「情報(情報I)」を入試教科に導入

(3) 教育の質保証にかかる取り組みの推進

① 教育の質保証にかかる取り組みの推進

指標: 客観的指標に基づくディプロマ・ポリシーの達成度、自己点検(学生アンケート)に基づくディプロマ・ポリシーの達成度、授業外学修時間、卒業時累計 GP、就職率、中堅・大企業就職率、大学院進学率、除籍退学状況など学生や学外関係者の意見やアンケート分析結果に基づく教育活動の改善・向上策の実施

② 教育のDX化の積極的推進

指標: デジタル技術を活用した「学修者本位の教育の実現」、「学びの質の向上」に資するための取り組みを推進
オンラインを活用したキャンパス間の接続強化による教育課程の拡充

③ リベラルアーツ教育の推進

指標: リベラルアーツ教育推進体制の構築および教育課程の充実

④ 学生のコミュニケーション力強化

指標: 英語 TOEIC スコア・受験率など

日本語読解・表現にかかる教育体制の再検討

(4) 大宮キャンパス再開発および研究施設の充実

指標: 計画の遅延なき遂行

バイオものづくりラボの建設による研究活動の更なる充実と研究力発信強化

- (5) 研究ブランディングにかかる取り組みの推進
指標: 共同研究、委託研究、学術指導、奨学寄附金、科学研究費補助金の受入件数・受入金額、特許出願件数、Scopus 掲載論文数など
- (6) 学生支援の取り組みの推進
指標: 課外活動の加入率、スポーツ教室の参加状況、奨学金による学習支援の継続実施
- (7) 就職の強化の取り組みの推進
指標: 就職率、導入から就職サポートまでの継続的なキャリア教育の実施など
- (8) 将来構想の策定
指標: 2026 年度以降の取り組み実施を見据えた具体的改組案の策定
- (9) 学園設置学校の各種連携強化の取り組みの推進
指標: 学園中高大連携プログラムの継続実施、学園2高校からの入学者数など
- (10) ブランド力向上・発信にかかる取り組みの推進
指標: 高大接続・理工教育支援事業の戦略的实施
各種イベントの動員数、外部調査機関によるランキング、SNS による発信回数、
大学広報活動の新規取り組みの実施(認知拡大に加えて教育・研究内容等の本学の長を発信する
具体的な取り組みの実施)など
- (11) 社会貢献活動の促進
指標: 関西知財セミナー: 実施回数、理工系教育拠点としての活動の継続実施
梅田キャンパス Xport を拠点とする産学連携事業(リカレント教育)の実施
ロボティクス&デザインセンターの再編に伴う企業連携・人材交流の強化による教育研究活動の拡充および就職
支援サービスの向上
- (12) グローバル活動の促進
指標: オンライン活用を含めた多様な国際教育プログラムの参加学生数など

3. TOPICS 等

- ・特別予算を活用したブランド力向上にかかる取り組みの実施

摂南大学 学長方針

1. 基本方針

今年度は、次代への発展のスタートとすべき開学 50 周年(2025 年)を迎え、すべての教職員が協働して本学の更なる飛躍・前進の年としたい。

近年、受験生の減少、近隣大学の学部増・拡充・改組等のために、本学を取り巻く環境はますます厳しさを増している。このような状況の中で、本学がこれまで以上に「選ばれる大学」「存在感のある大学」となるために、中期目標・計画の達成に向けた戦略的な大学改革とその発信・広報活動の強化を図る。教育では、「知のあり方」の時代感覚を適切に把握し、知識の教授に偏らず、創造性や多様な感性を育む学びを創出する大学へと改革を進め、学生自身の成長実感をも最優先し、学生が獲得した能力の可視化とその指標の共有を図る。研究は、大学ブランドや教育の基盤であり、総合大学としての学際研究、学術界を牽引する基礎・応用研究を推進することで、社会に多面的に貢献するイノベーティブな研究成果を創出する。更に、産官学の多角的な連携を深め、そのための研究環境や支援体制の改善・強化を図る。

これまで積み重ねてきた大学改革を基盤とし、従来の枠にとらわれない大胆な発想と新たな挑戦を通じて、斬新な取り組みを進める。また、すべての教職員が主体的に対話を重ね、協働することで、互いの可能性を最大限に引き出し、中長期目標の達成に向けた行動計画等を着実に推し進める。

2. 主要課題とそれに対する具体的な施策・指標

主要課題に関する具体的なアクションプランおよびその成果指標は、大学戦略会議にて策定し、学部・担当部署と協働して、組織的な PDCA を展開する

- (1) 学生募集: 学修意欲が高く、多様な能力をもつ入学生の安定的確保
 - ① 総合型選抜制度の充実・拡充・見直し
 - ② 学園内高校ならびに学園外高校との連携の強化による学修意欲の高い入学生の確保
 - ③ 大学および学部の魅力・強みの学生募集広報への活用強化
- (2) 教育: 「学生の成長第一主義の教育」を基本とした「学修者本位の教育」の強化
 - ① 教学マネジメントの強化: 学修成果(DP 達成度、GPS-Academic、資格取得率等)に基づく組織的な PDCA の展開(カリキュラム改訂等)

- ②FD/SD 活動の強化:「主体的・自律的学び、対話的学び、深い学び」のための教育デジタル変革の推進、学修方略改革(反転授業(ブレンディッド授業)、完全オンデマンド授業等の推進)、教員の教育スキルの養成(コーチング力、ファシリテーション力等)
- ③全学教育の推進:初年次教育、教養教育、副専攻課程等の再構成により人間力の醸成に資するカリキュラムを推進する。
- (3)研究・社会連携:研究成果の社会実装や学際研究の推進、研究環境や支援体制の改善・強化
 - ①9 学部を擁する総合大学として、多彩な専門性を融合した学際研究の推進
 - ②学内外との共同研究や社会実装研究の活性化のための戦略的な研究の推進
 - ③産官学連携研究の強化および Scopus 収録ジャーナルへの論文掲載の推進ならびにその目的達成に資する研究支援体制の充実
 - ④THE 世界大学ランキングへのランクイン
- (4)学生支援:正課外活動の活性化によるキャンパスライフの充実と人間力の涵養
 - ①課外活動や学生プロジェクト活動等の支援強化
 - ②指定強化団体(吹奏楽部、ラグビー部、陸上競技部、剣道部、柔道部、スポーツライミング部)等における団体・個人成績の目標達成に向けた支援の充実
- (5)進路・就職:学修者本位のキャリア教育の推進と進路・就職支援の強化
 - ①初年次から「学生が自らキャリア形成を実現できる」支援の強化
 - ②就活力育成実践プログラム(キャリア・オーナーズ・プログラム等)の充実と参加学生の増加
 - ③インターンシップ参加率の向上および大手企業インターンシップ参加者数の増加
 - ④実就職率の向上および大手企業等への就職支援の充実
- (6)ブランディング:大学の魅力・強みの追求および大学広報の組織的・戦略的取り組みの強化
 - ①全学・学部・学科の魅力・強みの追求およびその発信の強化
 - ②大学イメージの積極的な発信と学生募集に資する大学広報の戦略的取り組みの強化(コミュニケーション・アンバサダー活動等)
 - ③国家試験等の合格率・合格者数の目標達成(薬剤師、看護師、保健師、助産師、管理栄養士、一級建築士、教員採用試験、公務員試験等)
- (7)グローバル化:国際的な視野と専門性をもつ人材の育成支援の強化
 - ①学生の海外派遣および海外留学生受入れの目標達成に向けた取り組みの強化
 - ②海外協定校および未協定校との交流の活性化
 - ③国際共同研究の推進
- (8)人事・組織改組:学部・学科および大学院の改組の検討、戦略的かつ機動的な組織体制の構築および教員活動評価の改善と学部内の自律的な人事評価の定着
 - ①社会の期待・ニーズを踏まえたうえで、受験生・保護者等のステークホルダーが魅力を感じる学部・学科および大学院の改組・増設の検討
 - ②キャリア教育・支援強化のための組織体制の構築
 - ③リカレント教育の実施組織の構築
 - ④中長期目標・計画の達成に資する教員活動評価の改善と学部内の自律的な人事評価の定着

3. TOPICS 等

- ・開学 50 周年記念事業の実施
- ・大学院看護学研究科博士後期課程および現代社会学研究科修士課程の開設準備

広島国際大学 学長方針

1. 基本方針

2025 年度、本学は厳しい状況の中にあっても、選ばれる大学として持続可能な未来を目指し、果敢にチャレンジしていく。2024 年度には私立大学の約 6 割が入学定員を満たせず、大学経営に深刻な影響を及ぼしている。さらに、広島県は若年層の転出超過が 3 年連続で全国ワーストとなっている。2027 年度以降、18 歳人口が再び減少局面に入ることから、地方大学においてはより多様な学生層の受け入れが求められる状況となる。

健康・医療・福祉・地域の各分野で活躍する人材を輩出する使命を持つ本学は、この変化に対応し未来を切り開くため、「教育・学生支援」「組織」「財務」を一体的に捉えた改革を推進し、2027 年度からの将来に向けてチャレンジできる体制の確立を目指す。そのため、2025 年度を体制整備の期間と位置付け、多角的な施策を展開し、持続的な成長基盤の構築に取り組んでいく。

多様な学生が成長を実感できる柔軟な教育および学生支援を行うことで、学修者本位の教育を実現しさらに促進させる。そのため、専門教育と教養教育の連動強化等を目指したカリキュラムの再編成を行うとともに、除籍・退学者数の減少や進路に合わせた学生支援を軸にした学生支援体制の整備を行う。また、これらの教育・学生支援の改革を実現するための組織体

制を整備するため、入学定員・収容定員の見直しや基幹教員制度を活用した新たな考え方に基づく教員組織の再構築を目指すとともに、これらの改革を下支えする財務目線の施策を推進し、大学全体の収支バランスの適正化を図る。

これら「教育・学生支援」「組織」「財務」にかかる改革に全教職員が取り組むことにより、将来にわたり持続可能な大学であり続けるための基盤を盤石にする。

2. 主要課題とそれに対する具体的な施策・指標

主要課題に対する具体的な施策

- (1) 将来像の実現に向けた広国大ブランドの浸透
 - ① 学内外へのブランド浸透に向けた各種施策の策定および実行
 - ② ブランド指標向上のための施策の策定
- (2) 学生層に応じた学修者本位の教育および学生・支援体制の整備
 - ① 専門教育と教養教育を融合し、全学年を通じた学びの実現(新カリキュラムの編成)
 - ② 他職種(他学科学生)との連携を強化した専門職連携教育の再整備
 - ③ 多様な学生に対応した入学前提供プログラムの再整備
 - ④ 入学後の学生の内的変化に呼応する新たな進路に向けて柔軟に対応できる制度の構築
 - ⑤ 学生間で繋がり学び合う仕組みの構築と教職協働による学生支援の充実
 - ⑥ 正課外活動を通して学生が成長できるサポート体制の確立
- (3) 将来を見据えた教育の高度化および継続的な教育の改善活動
 - ① AIおよび教学システムを効果的に活用した教育の推進
 - ② 連携開設科目の実施に向けた学園設置大学との連携強化による支援体制の確立
 - ③ 「アセスメントプラン」の推進による学修成果の可視化と教育の点検・評価体制の確立および改善活動の実行
 - ④ 入学から卒業までの一貫した教育・学生支援の提供と卒業サポートの充実
 - ⑤ 学生同士がサポートする仕組みの構築
- (4) 本学の特色を生かした共同研究等の推進、大学全体での研究活動の活性化
 - ① 教員が積極的に取り組める研究促進策の策定
 - ② 地方自治体等との連携を踏まえた共同研究等の実現
- (5) 安定的な大学経営のための学生募集活動の実施
 - ① 中四国九州地区を中心とした高校生、保護者、高校教員向け接触者拡大施策の実施
 - ② 各学科等の特色の明確化および発信の継続
 - ③ 接触者の受験率、入学率向上に向けた志望優先度向上施策の実施
 - ④ 高校との連携による学生・生徒の交流事業の充実
 - ⑤ 専願制入試の充実によるアドミッションポリシーに合致した入学者の確保
 - ⑥ IR分析を活用した入学者選抜の充実
- (6) 社会連携・社会貢献活動の更なる充実に向けた自治体との連携協力事業の推進
 - ① 全学的な視点で教職員、学生が関わっていく広国市民大学運営の充実
 - ② 東広島 Town&Gown 構想をはじめとした近隣自治体との更なる連携強化
- (7) 教職員の役割に基づく能力向上とやりがいを持って働ける環境の実現
 - ① 教職員に必要な能力の向上に向けた FD・SD 研修プログラムの検証・見直し
 - ② 教職員のモチベーション向上施策の策定
 - ③ 本学教職員に必要な能力に基づいた教員活動評価の再構築
 - ④ 業務の見える化等による働き方改革の推進
- (8) 将来に向けてチャレンジできる組織体制の構築
 - ① 2027 年度改革実現に向けた各種手続き等の確実な履行
 - ② 教育・学生支援に注力できる教員体制の構築
 - ③ 内部質保証体制のさらなる充実
 - ④ 大学の意思決定に寄与できる IR センター機能の実質化
 - ⑤ 災害等さまざまな脅威に対応する BCP(事業継続計画)の実質化に向けた体制構築
- (9) 組織的な取り組みによる財務状況を鑑みた収支バランスの適正化
 - ① 安定的な大学運営の実現に向けた環境の整備
 - ② メリハリを効かせた予算編成の実行
 - ③ 財務収支の適正化に向けた収入増加策の策定、および支出削減策の実行

3. TOPICS 等

・「教育・学生支援」「組織」「財務」を一体的に捉えた 2027 年度改革

常翔学園中学校・高等学校 校長方針

1. 基本方針

「J-Vision37」により、将来像「人々が幸福で平和に生きることのできる世の中を創るため、生徒中心の教育を重視し、グローバルシチズンシップを身につけた自律的学習者を育成する教育先進校となる」の実現を目標に、教職員は自らの能力を向上させ、教育・研究環境の改善を図り、「誰もが安心してチャレンジできる学校づくり」を行う。また、学園内大学や常翔啓光学園中高との連携を更に深め、学園のスケールメリットを生かした学校運営を行う。

(長期目標より)

- ・生徒の主体性を伸ばす学習者中心の教育
- ・グローバルな視点とコミュニケーション能力を持った人材の育成
- ・高度な知識と探究力を伸ばす教育
- ・働き方改革の推進による心理的安全な職場づくり
- ・同僚性を尊重し、学習し進化し続ける組織の実現

2. 主要課題とそれに対する具体的な施策・指標

- (1) 自律的学習者育成に向けた授業改善と IR の実施運用
 - ① 主体性を育み、学習者中心となる授業改善
 - ② 自己調整学習およびカリキュラムマネジメントの研究
 - ③ データ・理論に基づいた教育 (IR) の実践
 - ④ 教科ごとの指導メソッドの確立
- (2) グローバル探究コースの運営とコース改編に伴う準備
 - ① 新たに高校に設けるグローバル探究コースの運営
 - ② コース改編に伴う準備
- (3) 高校海外修学旅行の目的明確化と語学研修・姉妹校交流等の充実
 - ① 目的・目標を明確にした海外修学旅行の準備
 - ② 姉妹校交流の活性化と姉妹校訪問旅行の実施 (2025 年度末は中国)
- (4) 生徒の主体性を重視する教育と学校行事の推進
 - ① 体育祭、文化祭の目的・目標明確化、生徒企画による生徒主体の校外学習の実施
 - ② 入学式、卒業式、新入生オリエンテーションなど生徒中心の学校行事の実施
 - ③ 図書室へのラーニングcommons併設
- (5) 生徒指導から主体性を伸ばす生徒支援へ
 - ① 「生徒支援プロジェクト」を立ち上げ、望ましい生徒支援の在り方について検討
 - ② 生徒・保護者・教員三者による校則変更プロジェクトの継続
 - ③ いじめの積極的防止対策と改正障害者差別解消法の理解促進
 - ④ ボランティアサークルを中心とした、生徒ボランティア活動の活発化
 - ⑤ 入室許可証の廃止検討と特別指導マニュアルの全面改訂
- (6) 学園内連携を更に発展させた中高キャリア教育・探究授業のアップデート
 - ① 問いづくりの手法と探究の理論を含め、各プログラム担当者の研修 (特別講師ではなく、本校教員が実施できるように)
 - ② 中学校 STEAM 教育と高校 JOSHO CAREER-UP CHALLENGE を再構築し、より効果的な学園内大学との連携を実施
- (7) 進路指導から目的ある進学を実現する進路支援へ
 - ① 「進路支援プロジェクト」を立ち上げ、本校に相応しく、望ましい進路支援の在り方を検討
 - ② 高校1年生対象学園内大学進学者イベントや保護者対象の進路講演会の開催
 - ③ 国公立大学推薦入試の組織的な対策、学園内大学との連携強化
 - ④ 2025 年度大学進学者・合格者数目標 (既卒生を含む)
 - ・国公立大学への進学者数 70 人以上 (2023 年度 68 人)
 - ・学園内大学への進学者数 178 人以上 (30%、2023 年度 20%)
(理系志願者増加策と学園内大学内部進学基準の再検討)
 - ・難関私立大学合格 300 人以上
- (8) 学習する組織の構築と研修文化の醸成
 - ① 研修・研究の奨励、学びを楽しむ文化の醸成
 - ② 教科会及び研究紀要の充実、公開研究授業の抜本的改善、外部研修会・研究会への参加奨励
 - ③ 常翔啓光学園中高及び他校との合同研修会の充実
- (9) 保護者への情報提供機会の拡大
 - ① 校長主催の保護者対象オンライン講演会の継続実施
- (10) 部活動改革の推進
 - ① 部活動ガイドラインを遵守した健全な運営
- (11) 働き方改革の推進と学校五日制実施に向けた検討
 - ① 各部署・コース・学年における行事・業務の見直しによる業務1割削減と学校 DX 化

- ②心理的安全で、誰もがイキイキと輝き、やり甲斐・生き甲斐のある職場づくり
- ③学校五日制実施に向けた検討
- (12)安定した入学者の確保
 - ①2026 年度生徒入学人数目標
 - ・高校:635 人(15 クラス、一貫コース 3 クラスを含む)・中学校:135 人(4 クラス)
- (13)トップダウンから自律型組織への改革
 - ①ミドルリーダーの育成、対話型組織クリエイター(兼教育サポーター)の導入継続
 - ②専門的リーダー教員の育成
 - ③自律型組織に相応しい「新しい教員評価と目標設定についてのプロジェクト」を立ち上げ、メンター制度を融合した教員評価制度の策定
 - ④コース間・部署間・学年間のコミュニケーションを促進し、安心安全な組織をサポートするための「教員カフェ」の新設

3. TOPICS 等

- ・IR の本格運用による授業改善の促進
- ・グローバル探究コースがスタート

常翔啓光学園中学校・高等学校 校長方針

1. 基本方針

長期目標である「J-Vision37」に謳われる「グローバル視点を有し理論的根拠をもって課題の発見・解決ができる人材を育成する」ために、育てたい生徒像として「2050 年の世界で活躍する人材」を育成することを継続する。

年間を通した戦略的な募集広報活動による本校認知度の広がりや、文部科学省「高等学校 DX 加速化推進事業」採択を受けての施設面でのデジタル化と教員のリスキリングが進んでいる。本校の教育3本柱である「グローバル教育、キャリアデザイン教育、イノベーション教育」の成果が大学進学実績などの数値で可視化され、教育そのものに関心を持ってもらえるようになっている。これまでどおり本校の教育が生徒の未来に役立つように上記3本柱の教育活動を展開したい。

常翔学園中高との連携や研修も多くなり、情報共有する中で各校の文化に合うようにその内容を採り入れ、互いに切磋琢磨し、「社会から選ばれる教育機関」となることを目指す。

2024 年度に教育探求部を設置し、生徒がさまざまな分野の専門機関に出向くことで、興味関心が高まり新たな知識を身に付けているという実感がある。この取り組みは「未来を啓け！プロジェクト」として運営しており、今後も多方面の協力を得ながら生徒自身が自分の未来像を描く手助けをする。

2025 年度も、「J-Vision37」第 I 期中期目標・計画の基本 10 項目を確実に実行することに注力する。「未来を啓け！プロジェクト」の根幹でもある、生徒が自ら疑問を持ち、自分自身のアプローチの仕方でも問題を解決していく手法を、中学生・高校生の中に習得することで、基本 10 項目の目標達成につながることを考える。

少子化に歯止めがかからない社会にはなっているが、本校は時代の要求にあった教育実践をし、時代の先読みができる生徒を育て、魅力ある、選ばれ続ける学校を目指す。

2. 主要課題とそれに対する具体的な施策・指標

- (1)大学合格実績の向上
 - ①総合型選抜・学校推薦型入試への組織的な対応
 - ②進路ガイダンスの時期や内容の精査
 - ③進路シラバスに基づく面談の実施により、目標設定の提示と生徒の進路意識向上
 - ④大学入学共通テストを意識した授業展開と各大学の入試問題研究
 - ⑤2026 年度大学入試合格者数・進学者数目標(既卒生含む)
 - 国公立大学合格者数 45名以上
 - 学園内大学進学者数 150名以上
 - 難関私立大学合格者数 70名以上
- (2)新しい学力観に基づく教育内容の検討
 - ①ルーブリック評価の研究と授業への浸透
 - ②SDGs 教育や LGBTQ を含めた人権教育啓発活動の推進
 - ③常翔学園中高との合同研修や情報共有による教育内容の充実
- (3)教育探求部活動事業の充実
 - ①高校「総合的な探究の時間」の授業内容の深化と発展的な研究
 - ②学園内大学進学クラスを中心に、地域社会と連携した活動の開拓と発展
 - ③「未来を啓け！プロジェクト」の新規企画と、それに並行した実施内容の精査
 - ④DX 加速化推進事業補助金を活用した ICT 環境改修の計画立案

- ⑤情報科との共同によるプログラミング教育の研究開発
- (4)グローバル教育・キャリアデザイン教育・イノベーション教育の推進
 - ①ネイティブティーチャーによる授業形態の再検討
 - ②新しい姉妹校提携に向けた提携先の検討
 - ③海外語学研修や留学の推進と、留学生・インターンシップ生受け入れの拡大
- (5)中学校教育内容の再構築
 - ①中学生の学習内容の定着
 - ②2026年度に向けて、両コースのカリキュラムの再編および行事内容の検討
 - ③生徒個々の状況を把握したうえでの離籍者数の抑制
- (6)入学者の学力レベルの向上と安定した生徒募集による財政基盤の構築
 - ①教育内容や進学実績の広報により、さらなる専願入学者数の増加
 - ②2025年度生徒募集(入学者数)目標
 - 高 校:430名(11クラス(内部進学2クラス含む))
 - 中学校: 80名(3クラス)
 - ③戦略的な募集広報活動による認知度向上施策の拡大
 - ④HP や SNS を活用した教育活動のタイムリーな発信
- (7)学園内大学との連携強化
 - ①理系教育拡充に向けた大工大連携事業の発展・継続
 - ②学園内大学進学クラスでの摂南大学教員による接続授業の調整
 - ③広島国際大学との接続教育の検討
- (8)教職員研修の充実
 - ①DX 加速化推進事業補助金を利用した教員へのリスキリングの充実
 - ②教科指導、生徒指導、探究活動に関する研修会などへの積極的参加
 - ③常翔学園中高との合同研修会の充実
- (9)ワークライフバランスがとれた働き甲斐のある職場環境づくり
 - ①新校務支援システムを活用したデータベースの運用開始と教員による事務的業務の効率化
 - ②2026年度開始に向けた土曜日授業の在り方についての検討を継続
 - ③魅力ある教員という仕事に打ち込み、同時に充実した余暇を過ごす意識の醸成
 - ④部活動ガイドラインの遵守による、勤務時間内での部活動を実施
 - ⑤招聘指導者や外部団体との連携や協力による部活動の推進
- (10)施設改修
 - ①体育館改修および空調設備の設置
 - ②1号館 ICT 機器の改修

3. TOPICS 等

なし